

令和元年度

専門学校 静岡工科自動車大学校

学校評価書(学校関係者評価)



専門学校 静岡工科自動車大学校 校長 岡部 剛

静岡工科自動車大学校評価委員会 委員長 服部 智子

(1) 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。 教育の柱となる3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、公開している。	4	特になし。	特になし
・学校における職業教育の特色は何か	自動車エンジニアとして基礎・基本である知識・技術を確実に身に付けるような教育を豊富な種類の教材と多様な学科構成により行っている。	4	自動車エンジニアとして「安心、安全」を意識した行動が身に付くように教育を徹底していく。	特になし
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期構想として第9次中期経営計画(2019～2021年度)を策定し計画を推進している。なお、2019年度は修学支援対象校の認定に向け学則変更を行った。	4	特になし。	特になし
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し学生便覧に掲載している。 また学校情報をしてホームページ上でも公開している。	4	特になし。	特になし
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育成人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	3	教育目標、育成人材像との業界のニーズに乖離が無いか卒業生及び企業アンケート等により、検証することが必要と考える。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

教育理念に沿って、毎年の目標、育てる人材などを定める体制が確立した。とはいえ、社会環境は年とともに変化するものであるから、今後は企業や社会のニーズをしっかりと捉えることに注力したい。

(2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。	4	経営環境の急変な対応については速やかに行動したい。 また、学校運営に関する情報収集及び幹部職員を中心とした問題の共有化を推進したい。	特になし
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。 実施時期も明確に策定し、計画どおりに実行している。	4	経営環境の変化により実施を見直すことや時期がずれることがあるが、先見性を磨き精度を高めていきたい。	特になし
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知するとともに、意思決定機能も明確にしている。	3	組織運営や意思決定においてはリーダーの職責が増しており、今後も研修やOJTにより、リーダーとしての自覚を促し、レベル向上に努めていく。	特になし
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	服務規程により人事、給与については整備されている。教職員の待遇については、資格手当(1級)の給付を新たに実施するなど、教職員のモチベーションの向上に努めている。	4	特になし	教職員のモチベーションUPは小幅である。今後他の資格(安全衛生、安全運転管理等)も対象に検討することも良い。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、広報・学生課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	3	情報量の違いにより意見の相違があるため、各々が得た情報を積極的に周知し、意思決定の円滑化を推進したい。	入学生数及び就職者数について確認があった。今後のエンジニア採用にはコロナの影響はないものと考えている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。 また、教職員業務対应手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	3	運用面において職員の意識やモラルに問題が見られるケースがあるため都度周知徹底を図っていく。	特になし

・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。その他 SNS なども活用し、ほぼ毎日教育活動を発信している。	4	特になし	特になし
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、業務の効率化が図られている。	4	特になし	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

昨年度の募集活動から2年課程から3・4年課程にシフトすることを明確にした。そのため、2年課程の学生が減り3・4年課程の学生が増え急遽学則の定員変更を行った。今後の運用について、学生の構成が大きく変化したことにきちんと対応していく。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていない。	特になし
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教務課の目標として、教育到達レベルを提示しており、教職員は目標とする育成人材像に近づくよう教育活動を展開している。2019年度は2018年度に定めた各科の育成人材像についての見直しを行い、各教室に掲示した。	4	育成人材像及び育成目標について明確化しているが、実際の教育にどう反映させるかが課題である。卒業後5～7年先のあるべき姿を明確化した育成目標としたい。	特になし
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が監督官庁であるため指定基準が決められており、不定期ではあるが基準内でカリキュラムを見直し、業界との格差が発生しないようにしている。	4	現在のカリキュラムになってから数年が経っている。2020年度から自動車システム工学科・自動車整備科については新カリキュラムにて運用していく。	カリキュラム変更し科としての動きから学年の動きに変わったことで、学生を見る目が増え、学生の様子がよりわかるようになったことを評価する。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題である。また、学校としてのキャリア教育プログラムを構築する必要がある。	特になし
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えカリキュラム編成委員会を開催している(5月、8月の2回)その中で、シラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善したい。また企業からの意見により実施している、整備作業アンケートの結果を踏まえ、授業に反映していきたい。	特になし

・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。企業と連携し1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては、大型自動車実習を実施しておりシラバスにも明記している。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に課題を感じていない。	特になし
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスを行うことで改善を図っている。	4	アンケート結果の目標を76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。今年度は目標であるA項目76%以上を達成し、昨年度を上回ることができた。(1・2学期平均81.5%)	評価向上の理由を学年部制にしたことと捉える。職員の負荷が均等化し、これまで多忙であった職員が学生に目を向けることができ、また、多数の職員が学生に触れることで、学生には話しやすい(波長が合う)職員に相談等がしやすくなったことは非常によい。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。	特になし
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定められており、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。	4	学生便覧(教務規定掲載)に明記されており、特に課題を感じていない。	新型コロナによって授業が止まった分の対応には万全を期してほしい。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	3	昨年度は資格合格率、取得率とも成績が向上したが、今年度も同様の成績を修めることができた。また、年度により成績に大きな差が生じないように実施要領を定めたい。	Web授業について学生からの評価をアンケート調査などで確認し、より良いものにしてほしい。広報活動に流用することもでき、学校の財産となる。動画を撮る際のノウハウを習得する工夫も検討してほしい。

・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。	3	職員の一級整備士取得率をさらに上げていきたい。朝礼や職員会議等において啓発を行い、未取得職員の意識改革を行いたい。	特になし
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	今年度も1年間、企業から社員を兼務教員として本校に出向させていただき、実践的な教育を提供する取り組みを実施した。	3	社会の慢性的な人材不足に伴い、本校においても人材確保が困難な状況である。今後は他の企業とも連携し優れた教職員の確保に努めたい。	特になし
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。新技術に関しても企業と連携し、研修を実施した。 また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。	3	昨年度から引き続き、指導力向上研修を実施したが、指導の統一を図るためにも来年度も継続したい。また、外部研修に関しては、より積極的に実施していきたい。	特になし
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。	3	職員がスキルアップするための研修について、参加しやすい環境を整えていきたい。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

令和元年度はJAMCAの第三者評価を受診し、「概ね良好」との評価をいただき、教育活動が問題なく行われていることの証明となった。今後は、上表の自己評価が3である項目について、4を目指して、それぞれの項目についての検討と対応策の実施に取り組む。

(4) 学修成果

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象に就職斡旋を行っている。面接指導や書類作成に関する指導は担任がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。本年度も就職内定率は100%である。	4	完全な売り手市場となっていて内定を得やすい環境である。人気があるからといったことで企業選びをするのではなく、相性が良く、長く勤められる企業を選ぶように指導している。	特になし
・資格取得率の向上が図られているか	教員は各資格に対する合格率の目標を個人の業績目標としている。本年度の合格率は危険物と日本語能力検定、職業訓練指導員が低下したが、中古車査定士、ソーシャル検定が向上した。	3	年によって問題の難易度に差が見られる。今後も、成果の上がる学習方法を常に検討し導入して合格率の更なる向上を目指す必要がある。	特になし
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、毎月の受講率を電子メールで教務課職員に送信し意識を高め、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。	3	勉強についていけないことから意欲をなくす学生がいる。進路について不安のある学生の早期発見、早期対応に努め、手遅れにならないよう指導する。	学力低下が叫ばれる中、退学率3.7%は立派である。学年制としたことが奏功した。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。卒業生が技能コンクールの全国大会で活躍した情報を収集している。	4	2019年夏に企業ニーズの聞き取りを行う機会があり、多数の卒業生の動向を聞くことができた。	全国大会出場等の情報はHPで情報発信すべき。その他、数値化した“売り”や育成人材像などをきちんと把握し募集活動に活かすとよい。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	毎年実施している企業実習や技術セミナーではOBが技術指導を行うことがあり、卒業生が貴重な人材として扱われていると感じる場面が多数あった。	3	企業ニーズも少しずつ変化しているようであり、聞き取り調査を3年に一度くらいの周期で行う必要がある。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

自動車整備士の資格取得率(特に一級)が毎年向上している。今後は、全員全種目合格を達成したい。

卒業後のキャリア形成については、どこかの時点で卒業生へのアンケート調査又は企業へのアンケート調査を実施することを検討する。

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	<p>本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。</p> <p>導入から三年目となった電子求人システムへの完全移行も順調に進み、企業研究や企業比較などが家庭内でも活用できるようになっている。</p>	4	<p>企業により求人システムへの入力、利用法などシステムの理解度に差が付き始めた。紙の求人票から電子求人システムへの移行には本校のサポートが引き続き必要になることが予想できる。管理会社と共にきめ細かく対応していく。</p>	特になし
・学生相談に関する体制は整備されているか	<p>学生からの相談は、主にクラス担任が対応し、それを主任がカバーする。またハラスメント等に関する相談担当者も常駐している。女性教員や保健室、広報・学生課や入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。</p>	3	<p>学生が相談できる仕組みは整っている。次の課題は様々な相談に対応できる職員を増やすことである。相談できるスキルアップだけでなく、相談しやすいと感じさせることができる職員になる必要があるため各種研修の参加や職場内研修などで対応したい。</p>	特になし
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	<p>高等教育修学支援による入学金、授業料の減免や免除、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。</p>	4	<p>各種減免により経済的負担は軽減される傾向にある。さらに、その各種減免と併用できる企業奨学金の利用により多くの学生が経済的負担の軽減を実感していると感じる。しかし、家庭により経済状況が異なるため、きめ細かい対応が必要になっている。</p>	特になし
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	<p>常勤の看護師の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。学生の登校状況、保健室の利用(傷病の申し出)状況、薬の使用状況は毎日管理され、心の健康(メンタル相談)にも配慮している。</p>	3	<p>看護師が勤務していない放課後の時間における対応に課題があり、現状では現場にいる教職員の判断に任せている。</p>	特になし

・課外活動に対する支援体制は整備されているか	クラブ活動などの課外活動は授業時間数が多い中でも支援できていると判断している。顧問である職員の負担は大きい、大きな不満を持つことなく積極的な活動、支援を行っている。	3	学生に対してのクラブ活動支援はできているが、休日の活動はクラブ顧問のボランティア精神によるところが大きいので、今後は顧問への支援体制を検討したい。	特になし
・学生の生活環境への支援は行われているか	1人暮らしの補助により下宿生には1万円/月の支援金を供与している。また、指定校に在籍し指定校入試基準を満たした合格者には5千円/月の通学費支援を行っている。	4	1人暮らしの補助、通学費支援により学校収益を圧迫しているが、募集活動には有効な取り組みのため継続したい。	特になし
・保護者と適切に連携しているか	年1回実施される後援会総会後に各クラスでクラス担任と保護者との懇談や個別面談を実施し、保護者授業参観会や個別進路相談会、また必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に連絡報告し、学生状況に関する相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	特になし
・卒業生への支援体制はあるか	定期的同窓会役員会を実施している。また、卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	4	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援も行っている。少数ではあるが再就職に結びついている。	特になし
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	3	さらに関連企業団体が気軽に企業ニーズを発することができる体制を検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくか工夫が必要である。	特になし
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介や自動車整備の模擬授業を展開している。また、「進路講話」「専門学校とは」「面接指導」などの各種指導を担当し高等学校のキャリア教育に積極的に参画している。	4	各種の講義、講話の内容を再点検し、現在よりも効果がある内容に改善したい。	本校学生のキャリア教育の一環として、卒業後5年程度経った方や起業した方の講話ができるとうい。

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

令和元年度には高等教育の修学支援対象校の認定を受けるなど、学生を支援する制度や態勢は年々厚くなっている。一方でメンタル面の弱い学生や学習障害が見られる学生が存在し、ソフト面での対応を求められる機会が増えている。教職員個々の意識を変え、正しい知識やノウハウ習得の機会を検討したい。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入しており、良い教育環境が整っている。	3	中期経営計画に従い整備を進めているが、経年劣化のため修繕を要する場所が次々に現れ、その対応に時間と費用がかかっている。	特になし
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	一級課程のインターンシップは第一種養成施設指定基準として明確に定められている。その他の学科もインターンシップを実施した。海外研修は自動車システム工学科4年生がアメリカ、自動車整備科2年生がグアム、シンガポールへ行った。	3	漫然とインターンシップを受け入れている企業もあり、教育成果が得られないケースがある。インターンシップの目的を企業と学生のそれぞれへきちんと伝える必要がある。	特になし
・防災に対する体制は整備されているか	災害対策対応マニュアルを備え、定期的に改訂を実施している。教職員への地震災害時の連絡体制については緊急連絡掲示板等を活用することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しておりまた、ホームページ上でも緊急時の対応策を掲載し確認できる体制としている。今年度は備蓄倉庫を整備した。	4	南海トラフ地震に対する公的な防災の対応が示されていない。ガイドラインが発表された時点で災害対応マニュアルを改訂する。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

新型コロナウイルスの影響があつてわかったことだが、マスクを備蓄したい。その他には特に問題を感じておらず現状維持で良いと考える。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学生募集活動は、適正に行われているか	特定認証制度の施行により、今後必要となる一級整備士へのシフトを行った。また、利用者数が安定している企業推薦制度の更なる拡大のために中学生への働き掛けも開始した。	3	整備士希望者拡大に向けた広報活動と保護者に対する経済的アドバイス等の支援を重視した広報活動に徹した。次は市場の拡大ではなく「育てる活動」を展開したい。	特になし
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	3	ホームページの「活動紹介」を利用し教育活動を分かりやすく伝えている。本校の各種情報も継続的に発信したい。	一級課程をメインのターゲットとするなら「特定整備」というように高校生にアピールできる素材を集めておくことが大切。コンパクトな動画を用意しておくといよい。
・学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定した。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

高校生への募集活動に使うものが紙媒体から動画などの電子データに変化しているので、高校生の趣向にあったものを準備したい。一方で親世代には昔ながらの紙媒体を好む方も多く、両者へそれぞれに合ったツールを整えたい。

(8) 財務

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	近年施設老朽化に伴う修繕費等が増加基調にあるが経費削減等に取り組み帰属収入の確保に努めている。	3	入学生の減少トレンドが加速していくため、中長期的には引き続き経費節減、入学生増加が望まれる。	特になし
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3ヵ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は事業計画による業務目標を達成させるべく適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	計画的な予算の立案を近年実施、及び定着しているため、予算の内容については妥当なものになっている。	特になし
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年「当年度事務処理状況調査及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。	4	特に課題を感じていない。	特になし
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	内規に定められており特に課題を感じていない。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

学則の定員変更を行ったことで、この先数年後には定員充足率も向上し安定経営が可能であると予想しているが、10年先ともなると不透明である。3～5年の中期の検討とともに10年後の長期的な目線での検討も進めたい。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。 設置基準、法令等の教職員への啓発活動として、H28年度から業務知識確認試験を実施している。	4	特になし。	特になし
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	3	内部監査を活用し、教職員の行動が規程を満たしているか調査を行うとともに教職員への周知徹底を図っていく。	特になし
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価も定着し、毎年見直しをしている。年度末には自己評価について所属長による改善指示をしており、その内容について学校関係者評価による検証も行っている。 2019年度はJAMCAによる第三者評価を受審し外部からの評価も行った。	4	特になし。	特になし
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特になし。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

特に問題を感じておらず、現状を維持したい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	中学生職場体験学習は積極的に受け入れており本年度は14校88名の実績であった。また、環境問題に取り組みエコアクション21の認証を取得・継続するなど、積極的な取り組みをしている。	4	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として社会ニーズを捉え積極的に取り組んでいきたい。	中学生職場体験の受け入れ人数急増は、本校の信頼性が確立された証だと承知する。エコアクションは教職員及び学生のモチベーションを高める取り組みとなるよう工夫する。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	本年度も学生に対しラジオ局主催の三保清掃活動のボランティアを紹介、募集し、有志学生9名が参加した。	4	時代の要請に合ったボランティア活動になるよう内容を検討したい。	特になし
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	県車体整備組合対象の「高度化車体整備技能講習」を実施した。 ・新素材編 2回 ・電子制御編 3回	4	依頼があった講習・講座のみ実施した。これ以上増やすことは本来の教育業務に支障が出る恐れがあるので、次年度も今年と同じ実施要領とする。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

中学校から職場体験の依頼が増えたことは、本校が積極的に中学校と良い関係を結ぼうとしている成果だと受け留めている。この関係をさらに深めていきたい。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	業界の慢性的な整備士不足に対応するため、2019年度には留学生定員を25人→40人に増員して受け入れ拡大を実施した。2020年度にはさらに60名定員に増員する。	4	日本語能力の低い学生は入学後の学校生活で苦勞することが多いため、受験者数を増やし、基礎能力の高い学生を選抜したい。	本校のブランド化につながるように、良い留学生(日本にきちんと定着する者)を卒業させることを目指してほしい。
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、本年度も名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として認定された。	4	留学制度研修会等に参加するなどして情報収集を続け、外国人に対する在留管理の変化に適切に対応している。	特になし
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	学校組織図に留学生担当職員を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。日常のことはクラス担任が対応し、必要に応じて科のリーダーや教務課長が対応する。	2	アルバイトの時間制限を守らない学生が多数いることが発覚した。法を厳守させるための方法を検討し、試験的に実施することとした。今後の状況をきちんと把握し更なる手段も検討する。	特になし
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	自動車整備系学科では卒業時に整備士の国家試験を受験している。 産能大、放送大とのダブルスクールを取り入れている。	3	1級国家試験の合格率が向上を続けている。産能大は少数ではあるが順調に卒業者が出ている。	特になし

* 4.適切 3.ほぼ適切 2.やや不適切 1.不適切 NA.当てはまらない

今後に向けての学校の考え

令和元年度、留学生のアルバイト制限が遵守されないケースがあった。学校の管理監督権限を強め再発防止に努める。具体的には所得証明書を提出させ、アルバイト時間の管理を行い、守らない学生には学校として退学処分を含む強い指導を行う。